希学園　第332回公開テスト　小２国語　２０２０年１月12日実施【解答】　制限時間25分

1

① 手玉
② 木目
③ 人力車
④ あき
⑤ せいねんがっぴ

2

1 公園
2 ウ
3 ③エ ④ア （3完答）
4 Ⅰ えらそう Ⅱ しっかり
5 その店の

3

① ア
② ウ
③ キ
④ エ
⑤ カ
⑥ ク

4

1 西から東へひとまわり
2 ウ
3 明るい
4 A 2　B 1　C 1

配　点

1	各２点×　５＝１０点
2〜4	各５点×１８＝９０点
	＜計＞１００点

希学園　第332回公開テスト　小2国語　2020年1月12日実施【解説】

1

①の「玉」は「、」の場所に気をつけよう。この「、」がないと「王」というべつの字になってしまう。相手を思いどおりにあやつることを「手玉にとる」ということもあるのであわせておぼえておこう。②の「木目」とは木の切り口にできるもようのことである。③の「人力車」の「力」には「りょく」だけでなく「馬力」や「力説」など「りき」という読み方もある。④の「空き」は「中がからっぽの」という意味である。⑤の「生年月日」とは生まれた日付けのことである。「月日」のところを「がっぴ」と読むことに気をつけよう。

2

1　――線①の一行前に「公園に上がる道」とあるが、これだけではいろはたちのめざしているところが公園であるとは言いきれない。（中　略）の一行あとに「公園の入り口で手をふっている先生」とあり、ここからはどこにもむかっていないので公園がいろはたちのめざしていたところだとわかる。

2　「口をとがらせる」は気に入らないことがあるようすを表すことばである。この男の子はいろはが道にまよっていることに文句を言いたいのであろう。

3　[③]は道にまよっていたいろはたちが、ぶじに公園にたどりついたので先生が安心しているようすである。[④]は先生の前ではおとなしくねこをかぶっていたいろはが、ほんとうは勝ち気であることが先生にばれそうになってあせっているようすである。

4　男の子の一人がいろはのことを「いつもとちがって、すごくえらそう」と言ったことに対して、サキちゃんは「ちがうよ」と言ったのである。では、ほんとうのいろはがどうなのかはそのあとのサキちゃんのことばにあるとおり、「学校でも」「しっかり」しているのである。

5　先生のほかにどんな大人の人が出ていたかをさがしていくと「クリーニング屋さんに入って、店のおばさんに聞いた」というところがあり、いろはが聞いたことはそのあとに書かれている。物語を読むときは、人が出てきたときに○でかこむなどしるしをつけておくとあとで見つけやすくなる。

3

いろいろな意味をもつことばの問題である。

① 紅茶とケーキとの味の組みあわせがよく、よりおいしく感じられるということである。
② 「はじをかく」ではずかしい思いをする、ということである。
③ 辞書で調べることを「辞書をひく」という。漢字字典など字を調べる字典は「字引き」ともいわれる。
④ 「くすりがきく」とはくすりのききめがよいということである。
⑤ みだれた髪をくしなどできれいにととのえることを「髪をとく」という。
⑥ 料理の味がおかしくないか少し食べてたしかめることを「味をみる」という。

4

1　――線①の前のところで、太陽が「東からのぼって西へしずんでい」くのは「地球が、一日かかってゆっくり西から東へひとまわりしているから」であると書かれていた。ここがおさえられていれば「自転」の意味を知らなくても、太陽のうごくはやさは地球のひとまわりのはやさであると目星がついただろう。なお、「自転」とは「自分でまわること」である。

2　「太陽がのぼるときや、しずむとき」に「大きく見えることがあ」る→でも→「写真にとってみると、太陽はいつだっておなじ大きさに見えてい」る、というつながりである。〰〰線のところでつじつまがあっていないので「でも」や「しかし」、「ところが」のようなことばが入る。

3　「生きもの」と「太陽」がどうつながっているのかをさがしていくには、「生きもの」につながることばがなかったかと見当をつけてさがしていくとよい。すると文章のはじめにある「花をさかせ、くだものをみのらせる」が見つかる。

4　A…――線①の一文前に「太陽がほんとに地球のまわりをまわっているからではありません」と書かれているのでまちがいである。地球のほうが自転しているのであった。B…[②]のある文のあとで「太陽が大きく見えるのは」「目のさっかくだとわかります」と書いてあり、太陽がのぼるときやしずむときにいつもより大きく見えるのは気のせいだといえるので正しい。C…――線③の二行前に「夏の太陽」は「頭の上から」てりつけるが、「冬の太陽」は「ひくくさがって」いると書かれているので季節によってたかさがかわると言える。

以上